

令和6年度農作物病虫害発生予察技術資料第10号

令和6年(2024年)11月15日
山口県病虫害防除所

野菜・花き類のチョウ目害虫の防除の徹底について

令和6年10月1日付け農作物病虫害発生予察技術資料第9号により、ハスモンヨトウの防除対策の徹底を呼び掛けていますが、11月に入ってもハスモンヨトウ、オオタバコガ、シロイチモジヨトウの発生が多いため、引き続き防除対策の徹底が必要です。

1 発生状況と今後の予測

- (1) 11月中旬の巡回調査(キャベツ)では、ハスモンヨトウは発生ほ場率100%(平年23.5%)、寄生株率22.7%(平年1.2%)、オオタバコガは発生ほ場率41.7%(平年15.8%)、寄生株率2.5%(平年0.5%)、シロイチモジヨトウは発生ほ場率83.3%(平年9.2%)寄生株率6.0%(平年1.3%)で、いずれも平年に比べ多かった(図1、2、3)。
- (2) ハスモンヨトウの県内5カ所のフェロモントラップによる誘殺数合計(10月11日~11月10日)は、20,733頭(平年4,185頭)で平年に比べ多かった(図4)。
- (3) 福岡管区气象台発表(11月14日)の1か月予報では、気温は高いとされており、今後も本虫の活動に好適な気候が続き、引き続き発生が多くなると考えられる。

2 防除対策

- (1) ほ場をよく観察し、発生及び被害が認められた場合には直ちに防除を行う。卵塊や若齢幼虫が集中した葉を見つけた場合は、捕殺するとともに薬剤防除を実施する。
- (2) 本年は、チョウ目害虫の発生に好適な条件が続いているため、定期的な薬剤防除を継続する。
- (3) 防除薬剤は、農作物病虫害・雑草防除指導基準を参考に選定する。
<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/122/22316.html>

3 防除上注意すべき事項

- (1) 中齢から老齢幼虫は薬剤の効果が低下するため、若齢幼虫期の防除を徹底する。
- (2) 多くの薬剤に抵抗性が発達しているため、散布後には効果を確認するとともに、同一系統薬剤の連用は避ける。
- (3) 薬剤防除を行う場合は、周辺の作物に飛散させないように注意する。
- (4) 農薬を使用する際には使用基準を遵守し、適正な散布作業を実施する。

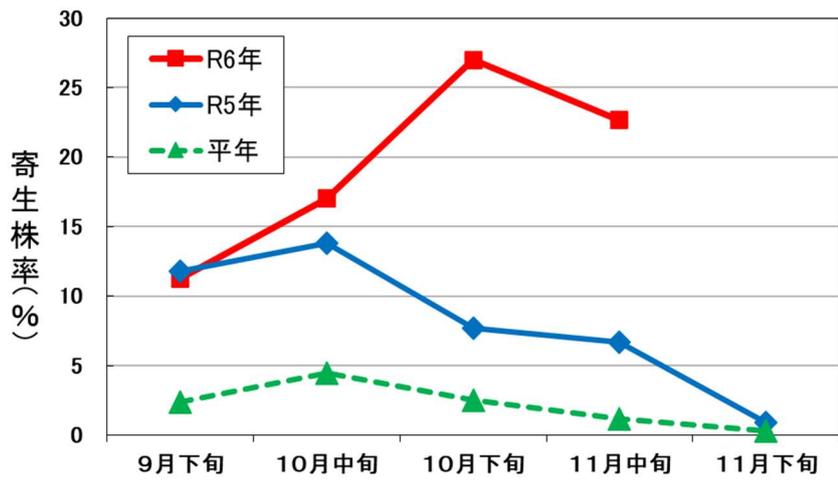


図1 キャベツ ハスモンヨトウの発生推移

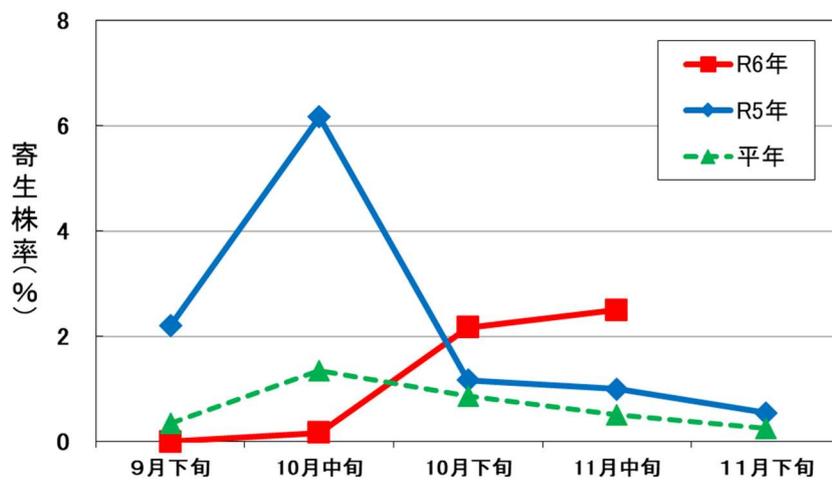


図2 キャベツ オオタバコガの発生推移

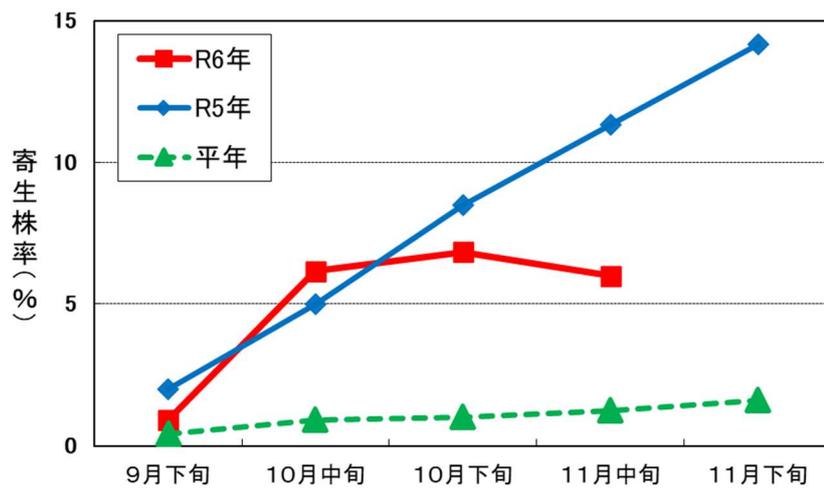


図3 キャベツ シロイチモジヨトウの発生推移

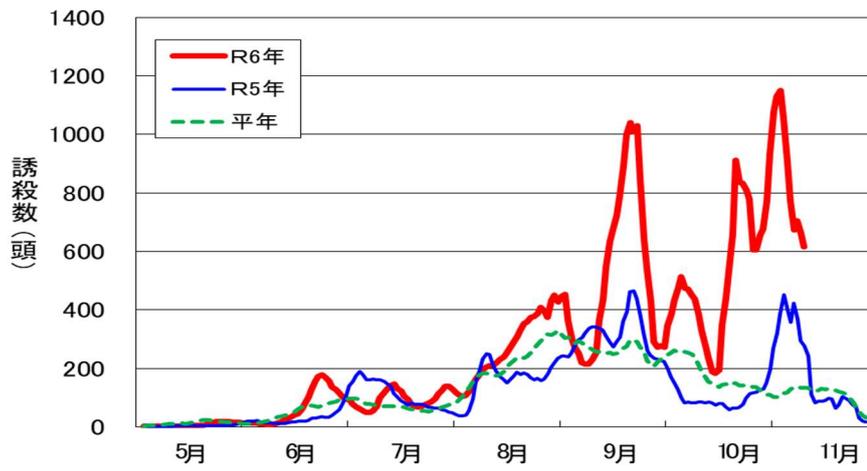


図4 フェロモントラップにおけるハスモンヨトウ誘殺数の推移（県内5か所）



写真1 ハスモンヨトウ成虫



写真2 ハスモンヨトウ卵塊



写真3 ハスモンヨトウ幼虫



写真4 オオタバコガ幼虫



写真5 シロイチモジヨトウ幼虫